



月見ヶ丘社宅の子ども。かれんなその目ももとが、今も忘れられない。

## 私の人形づくり

明治町分会　猿渡靜子

人形の数は多いのですが、私が特に心をひかれましたのは古今流真多呂人形です。これは木目込み人形で、木目込まれの壇となる部分に細い溝を彫り込み、そこに布を木目込むところからきたものです。

私は、木目込み人形の真多呂人形造りにうち込んでおりますが、

造る人形の種類は多く、能の源氏物語や平安物語などの文学作品、日本女装史の中の人間像や三月の雛人形、五月の節句人形などがあ

ります。

私は、鶴阿弥、世阿弥で完成された、六百年の歴史を持つ日本の伝統的な舞台芸術であります。そ

の人が、吉野大夫、菊慈童、舞の上、賀茂、屋島、草紙洗などがありますが、ひかれるのは老翁

の人生。大変とは思いますが

が頑張って下さるよう。

私は五年間真多呂人形づくり

にはひきつけられたのです。

使う布の生地で、代表的な名前

がありましたが、夕顔とは、短い光君

とその愛に命を燃やすした佳人

にふさわしい呼び名で、好きで

いた。

星のまたまにも似た恋に生き、昭和三十四年六月まで電気工。

た人——空蝉。夫の生きあと尼と

その後三交機械に転職。そして

松から育ててゆきました。

闘争が終り、宮浦ではサークル

が続々誕生。私も、三浦教育部員

から園芸サークル結成の準備委員

にとの相談をうけ、結果は七十名

におよぶ参加を得ました。

闘争前には、会社の手による宮

浦菊花会があり、昔貴重の、とかく閉鎖的な人びとにによる自己本位

で入賞中心に運営されていました

が、新しいサークルはその域を越

り越え、何でも話し合う研究会や

講習会(月一回)なども、それ

が今まで続いています。

組合関係の諸会議で多忙な私は

松はもちろんそのほかの植木など

も、会員皆様ほども手傳なかつた

のでしたが、「サークルの役員の

お前が少いとは……」といつて、

金貢仲間からもひいたのが一鉢の

松だったのです。自分でいうのは

おこがましいでしようが、昔の、だけで、ほかの松の数倍の植うち

甲斐があった、と今も大切にして

がするのも当然でしょう。

金貢仲間からもひいたのが一鉢の

松だつたのです。またその形、黒味を帶

見られず。またその色合いで、そし

て三枚葉など小古松と名づいた

富前社宅一棟に居住。

なあ、上の写真は長年にわたつ

て田上さんが育ててきた松の一

4日	官庁の仕事始める。特定休日
7日	七草。
11日	鏡びらき。
15日	成人の日。
16日	やぶ入り。

気象庁の長期予報では、前半季節、雪。でも、太平洋岸は晴天続き。(ちょっともんうちしき)など

では割愛いたしますが、今若、牛

若を生んだ當器御前のモデルとし

ての立派さに感動します。白拍子

姿の鳥帽子を冠り、大力を小

ねるのです。

私は五年間真多呂人形づくり

には、歴史ばかりでなくいろいろ

なことを知ることできました。時

には、人形のモデルが生きていた

時代の中にいる錯覚にさえどん

うに思えます。

真多呂人形づくりを通じまして

私は、歴史ばかりでなくいろいろ

なことを知ることできました。時

には、人形のモデルが生きていた

時代の中にいる錯覚にさえどん

うに思えます。

协调发展の新聞、みどりがおか

(十一月十五日発行)が、お伝え

してある記事です。

日本料理では、古くから奇数盛

りをよしとする習慣があります。

刺身の切り身の数、盛り合わせの

脇にたばさみ、扇をもって舞う姿

にはひきつけられたのです。

うちこんでまじりましたが、かね

ての夢が実り、このほど「認定

までの仲間の家庭を訪問して回

ります。

私は、四国栗松、三河松、小岱

ぬまき推されて委嘱。(百)千名

らさえ、今も指導・援助を受けて

いる私の友人が、「相談してい

るうちに、浦谷さんの益蔵を見て

ぬまきになら、初め、「三本の

松が日本の三大松といわれていま

す。とても美しい松が、よくて、

まだ氣の切り身を盛りつけると

まあ、必ず盛皿を向う側に盛りつ

け、添えものは手前に小高く盛り

上げるのがよしといわれます。

つけるのがよしといわれます。

刺身の切り身の数、盛り合わせの

脇にたばさみ、扇をもって舞う姿

にはひきつけられたのです。

うちこんでまじりましたが、かね

ての夢が実り、このほど「認定

までの仲間の家庭を訪問して回

ります。

私は、四国栗松、三河松、小岱

ぬまき推されて委嘱。(百)千名

らさえ、今も指導・援助を受けて

いる私の友人が、「相談してい

るうちに、浦谷さんの益蔵を見て

ぬまきになら、初め、「三本の

松が日本の三大松といわれていま

す。とても美しい松が、よくて、

まだ氣の切り身を盛りつけると

まあ、必ず盛皿を向う側に盛りつ

け、添えものは手前に小高く盛り

上げるのがよしといわれます。

つけるのがよしといわれます。

刺身の切り身の数、盛り合わせの

脇にたばさみ、扇をもって舞う姿

にはひきつけられたのです。

うちこんでまじりましたが、かね

ての夢が実り、このほど「認定

までの仲間の家庭を訪問して回

ります。

私は、四国栗松、三河松、小岱

ぬまき推されて委嘱。(百)千名

らさえ、今も指導・援助を受けて

いる私の友人が、「相談してい

るうちに、浦谷さんの益蔵を見て

ぬまきになら、初め、「三本の

松が日本の三大松といわれていま

す。とても美しい松が、よくて、

まだ氣の切り身を盛りつけると

まあ、必ず盛皿を向う側に盛りつ

け、添えものは手前に小高く盛り

上げのがよしといわれます。

つけるのがよしといわれます。

刺身の切り身の数、盛り合わせの

脇にたばさみ、扇をもって舞う姿

にはひきつけられたのです。

うちこんでまじりましたが、かね

ての夢が実り、このほど「認定

までの仲間の家庭を訪問して回

ります。

私は、四国栗松、三河松、小岱

ぬまき推されて委嘱。(百)千名

らさえ、今も指導・援助を受けて

いる私の友人が、「相談してい

るうちに、浦谷さんの益蔵を見て

ぬまきになら、初め、「三本の

松が日本の三大松といわれていま

す。とても美しい松が、よくて、

まだ氣の切り身を盛りつけると

まあ、必ず盛皿を向う側に盛りつ

け、添えものは手前に小高く盛り

上げのがよしといわれます。